

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課
担当課長名：服部 卓也

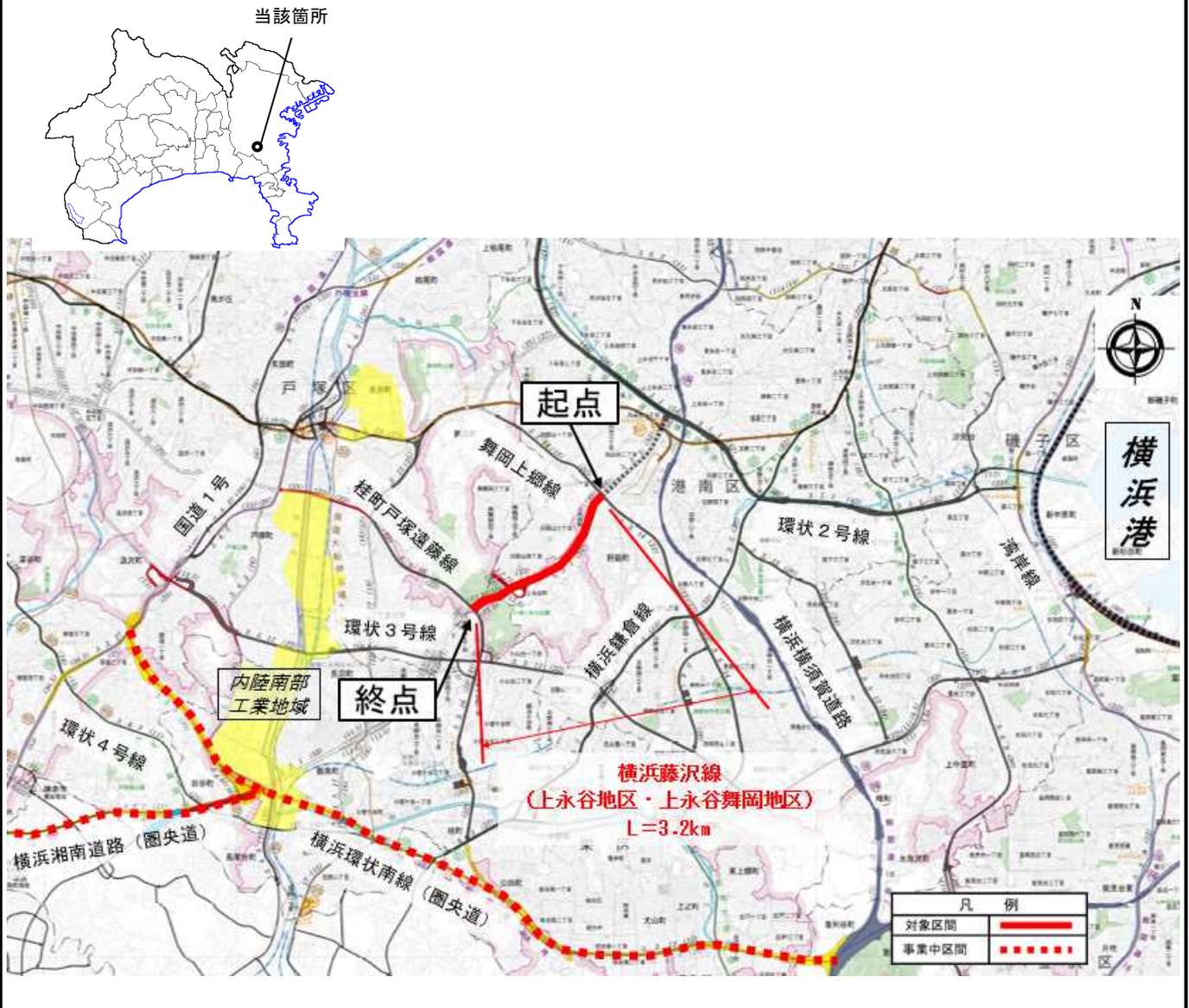
重要物流道路 事業名 都市計画道路 横浜藤沢線 (上永谷地区・上永谷舞岡地区)	事業区分	街路	事業主体	横浜市	
起終点 自：神奈川県横浜市港南区丸山台四丁目 至：神奈川県横浜市戸塚区舞岡町			延長	1.9 km	
事業概要 都市計画道路横浜藤沢線は、横浜市内の幹線道路網の骨格となる3環状10放射道路の一部を構成する道路であり、渋滞緩和、物流の拠点間アクセスの向上を目的とし横浜市港南区丸山台四丁目～戸塚区舞岡町までの延長約1.9 kmを整備するものである。					
H元年度事業化		S44年度都市計画決定		H元年度用地着手	H元年度工事着手
全体事業費	約207億円	事業進捗率	約68%	供用済延長	— km
計画交通量	33,600～34,300台/日				
費用対効果	B/C	総費用	総便益	基準年 令和4年	
	(事業全体) 2.9	(残事業)/(事業全体) 51/343億円 事業費：48/340億円 維持管理費：3/3億円	(残事業)/(事業全体) 988/988億円 走行時間短縮便益：861/861億円 走行経費減少便益：117/117億円 交通事故減少便益：9/9億円		
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=2.3～3.4 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=16～23 (交通量±10%) 事業費：B/C=2.6～3.2 (事業費±10%) 事業費：B/C=19～23 (事業費±10%) 事業期間：B/C=2.0～3.6 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=15～21 (事業期間±20%)					
事業の効果等 ・横浜市南部、内陸南部工業地域と横浜港等の物流拠点とを結ぶネットワークの構築により、物流の安定的な輸送能力が確保される。 ・災害緊急時における緊急物資の輸送や緊急車両の通行路としての機能強化が図られる。					
関係する地方公共団体等の意見 沿線自治体で構成される「道路対策委員会」から、本事業の早期完成の要望活動が行われている。					
事業評価監視委員会の意見 事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等 ・横浜市南部地域では、高速横浜環状南線及び横浜湘南道路の整備が進められており、周辺地域の交通需要の増加が見込まれている。 ・令和4年4月1日に、当該事業区間が「横浜市道横浜藤沢線」及び「横浜市道上永谷第二百二十三号線」として重要物流道路に指定。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地取得率約99%、事業進捗率約68%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 用地取得と並行して施工可能な部分の工事を進め、令和12年度の完成を目指して事業を推進していく。					
施設の構造や工法の変更等 建設発生土の工事間流用を行い、運搬費及び残土処理費のコスト削減を行うとともに、舗装、構造物についても、設計段階から可能な限りコスト削減に努める。更に、隣接する上永谷線の道路事業と工事進捗を合わせることで、仮設材の減量化など間接費を含め、コスト削減を図る。					

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。